

法政大学

「自由を生き抜く実践知」を育てる



総長 田中優子

世界は流動化の時代に入りました。これから社会に出て行く人々は、世界のあらゆるところを仕事場にするようになります。日本で働くにしても、様々な文化的背景、価値観、信仰をもった人々と協働していくことになるでしょう。

大学をはじめとするあらゆる教育現場や職場にグローバル化が要請されているのは、その現実に対応するためです。大学が生き残るためではなく、ひとりひとりの学生が新しい多様性の時代を生き抜いていくためです。その状況は、視野を広げ柔軟な能力を高める好機でもあります。AIによる新しい産業の時代を迎え、現場に即した柔軟な思考力はますます重要になっています。

法政大学は、卒業生たちが社会で多様な人々と共に働き、個々の能力を十全に発揮し、世界に貢献できるよう、質の高い教育を実現しています。今後はさらにそれを拡大すべく、新たな仕組みをつくっていきます。

法政大学は1880年設立の東京法学社から始まり、活気ある公正な社会をめざして尽力してきました。今では15学部を擁し、多くの受験生が志願する総合大学に発展しています。長年、派遣留学支援に力を入れ、個々の学部も留学支援の仕組みをもち、毎年、全国でも上位に位置する人数が海外留学を果たしています。学生たちは世界の現状を知り、自分の能力をみつめ、その向上をめざすモチベーションを高めています。

法政大学は「自由を生き抜く実践知」という大学憲章をかげました。日本人の学生のみならず海外からの留学生も本学で日本を学ぶことによって、自ら将来を切り拓き、世界で生き抜く力を学んでいます。この国際的なキャンパスで、理想に向かって現場で学び続ける「実践知」を身につけ、様々な課題解決に挑戦できる力を得て下さい。

田中優子